

第2次花巻市まちづくり総合計画
(長期ビジョン)の策定に係る
関係団体等との意見交換
実施報告書

令和5年3月

花巻市

目 次

❶ 実施概要	4
1 実施目的.....	4
2 意見交換団体及び実施日時	5
❷ 意見交換の内容	6
1 花巻農業協同組合	6
2 花巻市 PTA 連合会	9
3 コミュニティ会議（27 地区代表）	11
4 一般社団法人花巻観光協会	17
5 花巻市森林組合.....	20
6 社会福祉法人 花巻市社会福祉協議会	23
7 花巻市社会教育委員	25
8 花巻商工会議所.....	28
9 花巻市地域公共交通会議委員	31
10 公益社団法人 花巻青年会議所.....	34

実施概要

1 実施目的

令和6年度を計画初年度とする第2次花巻市まちづくり総合計画（長期ビジョン）の策定に当たり、計画に記載する分野別の政策等に専門的な意見を反映するため、市民参画の一環として関係団体との意見交換を実施しました。

具体的には、今後、長期ビジョンの6つの分野の柱及び基本政策の「目指す姿」や、各分野における基本政策・施策等、長期ビジョンの掲載内容について、今後の検討に繋がる意見交換を実施しました。

関係団体との意見交換は、第2次花巻市まちづくり総合計画長期ビジョンの策定にあたり、花巻市市民参画・協働推進委員会において、「適切である」と事前評価を受けた6つの市民参画方法の一つです。



2 意見交換団体及び実施日時

No.	団体名	日時	会場	テーマとする分野等	同席した 担当部署等
1	花巻農業協同組合	令和4年 11月29日(火) 午前10時00分～	花巻農業協同組合 組合長室	「しごと」 分野	・農林部長 ・農政課
2	花巻市 PTA連合会	令和4年 12月9日(金) 午後6時00分～	花巻市生涯学園都市会館 まなび学園 第1中ホール	「子育て・ 人づくり」 分野	・教育長 ・教育部長 ・学校教育課 ・こども課
3	コミュニティ会議 (27地区の代表)	令和4年 12月12日(月) 午後2時00分～	花巻市生涯学園都市会館 まなび学園 第2・3中ホール ※ワークショップ形式にて実施	「地域づく り」分野	・地域振興部長 ・地域づくり課 ・各総合支所地域 振興課
4	一般社団法人 花巻観光協会	令和4年 12月13日(火) 午後2時00分～	花巻市交流会館 第2研修室	「しごと」 分野	・商工観光部長 ・観光課
5	花巻市森林組合	令和4年 12月21日(水) 午前10時00分～	花巻市交流会館 第4会議室	「しごと」 分野	・農林部長 ・農村林務課
6	社会福祉法人 花巻市社会福祉 協議会	令和4年 12月21日(水) 午後1時30分～	花巻市役所本庁舎 302・303会議室	「健康・ いのち」 分野	・健康福祉部長 ・地域福祉課 ・長寿福祉課 ・障がい福祉課
7	花巻市 社会教育委員	令和4年 12月22日(木) 午後2時00分～	花巻市生涯学園都市会館 第2・第3中ホール	「子育て・ 人づくり」 分野	・生涯学習部長 ・生涯学習課 ・賢治まちづくり課 ・スポーツ振興課 ・教育部文化財課
8	花巻商工会議所	令和5年 1月11日(水) 午後1時30分～	花巻商工会議所 会議室	「しごと」 分野	・商工観光部長 ・商工労政課
9	花巻市地域公共 交通会議委員	令和5年 1月17日(火) 午後3時30分～	なはんプラザ COMZホール	「暮らし」 分野	・建設部長 ・都市政策課 ・道路課
10	公益社団法人 花巻青年会議所	令和5年 1月23日(月) 午後1時30分～	花巻市役所本庁舎 委員会室	SDGsの推進	・総合政策部長 ・秘書政策課

意見交換の内容

1 花巻農業協同組合

令和4年11月29日（火）午前10時00分～ | 花巻農業協同組合 組合長室

まちづくり分野の目指す姿について

現計画の目指す姿（しごと分野）

仕事いっぱい、雇用がいっぱい、活力に満ちたまち

【現計画の文言について】

- 「仕事いっぱい、雇用がいっぱい」という言葉について、農業分野の直接的な言葉はあえて入れる必要はないと感じる。

【人材の確保・育成について】

- 現計画では、「仕事いっぱい、雇用がいっぱい」を目指すとしているが、実際は働く場所はある一方で、働く人がいない状況である。
- 例えば海外から人材を確保するなど、人材の確保の方策を考えなければいけない。
- 農業を維持していくためには、やはり人がいないといけない。人材を確保するための施策を市で進めてほしい。人材がいることで、農業法人や農家は安心して働くことができる。農業用ローンの活用など機械化が進んだとしても雇用は必要になってくる。
- 10年前はパートタイムでも仕事があればいいという考え方もあったが、現在はそういった時代ではない。

【環境に配慮した農業について】

- 国が目指す「みどりの食料システム戦略」で示されている、環境へ配慮した農業（化学肥料・化学合成農薬の不使用）などの方針を入れた方がいいのではないかと聞いている。「みどりの食料システム戦略」では、行政が関わる役割が大きいと聞いている。「有機農業のまち」といった言葉が入るとよいのではないかと聞いている。また、「環境」はこれからのキーワードになる。農協としても環境保全に取り組んでいかないと聞いている。
- 環境保全への考え方は、暮らしからのアプローチと、産業からのアプローチでは考え方が異なる。リンクする部分もあるが、目指す部分が違うのではないかと聞いている。
- 現計画の「暮らし」分野でも該当する箇所があるが、こちらは協働の考え方のもと、一人ひとりが環境保全に努めていくという意味合いが込められていると感じる。
- 「環境保全」と「持続可能」が今の時代に必要だと言われていることである。農業も持続可能を目指すことになるが、そこに「人」と「金」をどう関わらせるかを考えていかないと聞いている。

い。「環境保全」は今や産業全般に共通する言葉になっている。

- 農業分野として、目指す姿は「環境保全」「持続可能」という言葉に集約されてくると思う。

政策の方針について

現計画の政策の方針（基本政策 1-1「農林業の振興」）

就業者の減少やグローバル化による影響が懸念される中、農林業を持続していくためには、農林業に携わる人が安定した所得を確保することが必要です。

そのために、収益性の高い農畜産物などの生産支援を行うとともに、担い手となる後継者の育成、生産基盤や施設の整備による生産性や作業効率の向上に取り組みます。

また、地元産の木材が建築材等として利用されるための供給体制の構築、森林の健全な育成に取り組みます。

【現計画の文言について】

- 政策の方針の２段落目（そのために～）の文章について、内容はこのままでもよいと思う。

【中山間地域への支援について】

- 中山間地域への支援をもう少し入れてほしい。今後、中山間地域の衰退が加速していくことが考えられ、課題である。現在の文章に組み込むことが難しければ、別で文章を付け足すなどしてもらいたい。

【有機農業の推進について】

- 昨今、食の安全保障が着目される中で、そのニュアンスをどれくらい入れるべきか。
- 有機農業については、国の方針に基づき全面的に方針として掲げることが、市としては現実的に難しい現状もあるのではないかと。100%でなく、一部でも有機農業で取り組んでいけばよいので、少しでも取り組む姿勢を見せる文言があった方がよい。実際に「半有機」として取り組んでいる農家も出てきている。
- 「有機農業の推進」については、方針の文章に入れるより、各論に取り組みとして、入れる方がよいのではないかと。方針の中では軽く触れる程度にし、各論で具体的に言及する方がよい。

市民に期待される役割について

現計画の市民や企業に期待される役割（基本政策 1-1「農林業の振興」）

◇市民に期待される役割（地域、市民団体等を含む）

・地産地消の心がけ

・地域農畜産物の贈答品への活用

・地元産木材の有効活用・適切な森林管理

・植樹育樹活動や里山整備への参加

【現計画の文言について】

- 「地産地消の心がけ」という言葉だけでは弱いのではないかと。「積極的に」地元産農産物を買ってもらえるようにしてほしい。地元の人が地元のことを知らないという話も他市で聞く。「花巻市産のもの（地産のもの）を食べる」などの方針を示していく方がよい。
- 花巻産のものはスーパーでみかけない場合が多い。市民が購入できる場所が産直ぐらいしかない。
- かつて仙台市のスーパーに花巻産コーナーをつくろうと取り組んでいたが、難しかった。スー

パーの中に花巻産のものを売るコーナーがあるとよい。

- 「花巻産のものを食べましょう」のように、「心がけ」だけでなく行動も入れてほしい。
- 「贈答品への活用」は「花巻産農畜産物の PR や紹介」としてもらった方がよい。表記的にそちらの方がわかりやすい。

【人材の確保について】

- 農業自体に関心を持ってもらわないといけない。農業への理解の醸成が必要である。
- 直接的な言い方をすれば、農作業への参画をしてもらいたい。収穫時など、忙しい時期に限定したお手伝いなど。
- 子どもの農業体験などについては具体的にはここで触れなくてもよいと思う。どちらかといえ、農作業のお手伝いに関する内容に触れてほしい。
- やはり人手不足が懸念される。農作業の機械化も進めているが、作業が適期に間に合っていないほか、農家が負担を抱え込んだり、慢性的に人手不足になったりしている状況がある。自らの農業経営を辞めてしまった人が農業法人等の雇用者として別の農作物などを作るなど、農業に再び関わってもらえるとよい。
- スローガンのようにしたい。「積極的な応援」などの言葉が入るとよい。

企業の役割について

現計画の市民や企業に期待される役割（基本政策 1-1 「農林業の振興」）

◇企業の役割（事業所、個人生産者等を含む）

- | | |
|-----------------------------|----------------------------|
| ・ 生産者自らが販売できる環境づくりと販売促進 | ・ ICT 技術等の導入による品質の向上と低コスト化 |
| ・ 適地適作による地域の特産物の生産と出荷量の安定確保 | ・ 耕作放棄地の解消と発生させない努力 |
| ・ 農業の魅力の発信と人材育成 | ・ 良質な木材の提供 |
| ・ 健全な森林育成のための下刈や間伐などの実施 | ・ 意欲と能力のある林業経営者の育成 |

【現計画の文言について】

- 「ICT 技術」という表現は「スマート農業」に表現を変えた方がよい。また、スマート農業によって実現されるのは、「品質の向上」ではなく、「低コスト化や作業の負担軽減」などである。
- 「耕作放棄地の解消と発生させない努力」は、「農地の保全と耕作放棄地の解消」などの表現の方がよい。
- 「適地適作」は「地域の特性に応じた農業」のような表現の方がよい。花巻市だけの話ではなく、明確な区分をしていないので、取ってしまってもよいのではないかと。
- そもそも市のイメージする適地適作とは何か。大迫のぶどうなどが考えられる。
- 果樹は高低差・寒暖差がある山手の方などはあるが、結局区分が難しい。
- 現在は「適地適作」という言葉はあまり使っていない。「需要に応じた生産」「地域に応じた生産」などの言葉の方がよいと思う。

2 花巻市 PTA 連合会

令和4年12月9日（金）午後6時00分～ | 花巻市生涯学園都市会館（まなび学園） 第1中ホール

まちづくり分野の目指す姿について

現計画の目指す姿（人づくり分野）

郷土を愛し、丈夫な体と深い知性を持つ心豊かな市民が育つまち

本市は、宮沢賢治をはじめ、多くの先人を輩出するとともに、早池峰神楽など様々な民俗芸能が伝承されるなど、歴史と文化に彩られています。また、充実したスポーツ施設を整備するなどスポーツによるまちづくりを進めています。これらを生かし、次代の花巻を担う人材を育成します。

●政策の目指す姿

- 子育てに喜びを感じ、安心して、健やかな成長を育んでいます
- 夢と希望を持ち、たくましくいきいきと育っています
- 生涯を通して学び、広い視野を持ち、活動しています
- 世界に目を向け、様々な地域の文化や風土を受け入れ、交流しています
- いつでも、どこでも、いつまでも気軽にスポーツに親しみ、元気に活動しています
- 地域の歴史や文化、先人に誇りを持ち、芸術文化に親しんでいます

【現計画の文言について】

- 子育て支援については、子どもが成人するまでが子育てなので、未就学児だけでなく、子育て世代全体に響くようなメッセージの方がよいと思う。小中高まで子育てを支援していく旨を示した方がよい。

【計画について】

- 毎年 PTA の役員が変わっている中で、総合計画について知る機会をいただけるとよい。コロナ前は、研修会や表彰式などがあったが、このような計画を説明する機会を設けてもよい。「第2次花巻市総合計画に係る市民意識アンケート調査」の年齢層を見ると、関心を持っている人たちの割合は60歳以上が多い。若い世代にも参加してほしいという意見がある中で、もう少し広めるといいのかなと思った。

【部活動・放課後の過ごし方・遊ぶ場所について】

- 市でも地域づくりを進めているが、担い手がおらず地域が疲弊している。一方で部活動の地域移行や、コミュニティスクール等、地域に期待するという動きがある。地域の方の視点、親の視点、双方から考えた方がよいのではないかな。
- 地域によってはやりたくてもやれない部活が出てきている。野球すらできない学校も出てきている。部活動の選択肢を残していけないか。
- 子どもたちの下校時間が早まっている。一度家に帰って他の子と遊びにいくというのが、距離がありすぎて難しい地域もある。職員の就労時間の管理のためであると聞いているが、子どもが放課後に遊んだり、体を動かす時間を確保できるように考えていただきたい。冬場は自転車を使うこともできない。
- 子育て支援に関する要望で、「家族で遊べる場所がほしい」ということが非常に多くなっている。年配の世代からしてみれば、山でも川でも遊べるような気がするが、広域公園の芝もイノシシなどの被害を受けてしまっている。例えば夏も冬も遊べる盛土の山を作るなども考えられ、

それであれば小学校の校庭でもいいと思うが、野生動物もどんどん増えていて、環境も変わってきている。今は遊具があればいいというわけではない。家族で来て、ゆっくり走り回れることができる場所があればいいと思う。環境の整備をゼロからスタートするのか、今あるものを改善していくのかを考えていかなければならない。

- 盛岡市の盛南地区幹線沿いにあるような、気軽に行けるような公園があるとよい。車で通るだけでも面白そうだなと思える。街中にあり、車で行って遊べるような場所があるとよい。

【子育て支援について】

- 子育て支援を進めていく中で、企業の協力も必要である。母親だけでなく、父親も育休をとることができるようになるとよい。

【SDGs について】

- 今後、こども家庭庁ができるなかで SDGs についても関連性が出てくると思う。SDGs 自体が大きいスケールのものであるので、全部を組みこむことは難しいと思う。今後、学校でも SDGs の教育は求められてくるが、環境教育については基本的にすべて SDGs に関わるものである。

【多世代交流について】

- 子どもたちが地域の行事に参加するようになることが重要である。子どもの成長にとっても大きいことである。
- 子どもとの交流機会を企画する側からすると、昔の遊びや昔の伝統などを伝えたいと考えているが、子どもからみると魅力的に映らない場合が多い。
- 農業体験を通じた 3 世代交流に取り組んでいるが、手作業の農作業ではなく、機械化した作業を体験してもらった。人手不足の中で農業が辛いものでないないということを示していかないといけない。
- 役員再選の際にアンケートをとったが、交流行事が面倒、多すぎるといった意見も多くみられた。
- 事業の企画について、P T A を通さずに地域の人々が直接学校を通して話して、決まってしまうこともある。
- 子どもたちが地域のことについてどういった勉強をしたいか挙げてもらい、やりたいことを自ら企画してもらうように進めている。学校でも地域のことについて考える時間を作ってもらった方がよいと感じた。

【地域活動・交流について】

- ある地域でお神輿が出せず、展示しようという話が出ているが、自分の代で止めてしまうのではなく、子どもの代に残せたいと言えるように、伝統を伝えていきたい。子どもが大人になったときに、自分の子どもに言えるようにしていきたい。
- 他の地域と異なることとして、花巻市で「先祖代々の土地を守る」「守るべきことがここにはある」といった意識がある方が多い。花巻は花巻で守っていくべきものがあり、それを強制ではないかたちで関わっていけるようになるとうい。
- 若者たちが帰ってきて楽しめる地域にしていけないと感じている。
- 地域に若者が来づらい雰囲気はまだあると思う。どうにかしないと人は減っていつてしまう。小中学生が行事になるべく参加できるようにしていけるとよい。
- 20 代 30 代の人々が自分たちで企画して取り組むことができる機会があるとよい。周りが見守るような形でまずはやらせてみることができるとよい。

3 コミュニティ会議（27 地区代表）

令和4年12月12日（月）午後2時00分～ | 花巻市生涯学園都市会館（まなび学園） 第2・3中ホール

※コミュニティ会議においては、27 地区の代表が5つの班に分かれてワークショップ形式で意見交換しました。施策4-1「地域主体のまちづくり」については、2・4班、施策4-2「参画・協働のまちづくり」については1・3・4班が検討しました。

○ファシリテーター 特定非営利活動法人花巻市民活動支援センター
理事・事務局長 太田 陽之 氏

まちづくり分野の目指す姿・政策の方針・市民や企業に期待される役割について

現計画の目指す姿（地域づくり分野）

すべての市民が手と心をつなぎ、個性あふれる自立したまち

本市では、市民参画と協働によるまちづくりを推進するとともに、市内27のコミュニティ地区において、自主的な地域づくりを進めてきました。これまでの取り組みを生かし、市民主体のまちづくりを進め、豊かな地域社会を作ります。

●政策の目指す姿

- 個性あふれる地域づくりが活発に行われています
- お互いを尊重し、持っている特性と能力を活かし合い、まちづくりを行っています

現計画の政策の方針（基本政策4-1「地域主体のまちづくり」）

これまで進めてきた住民主体の地域づくりが、より個性にあふれ活発に行われるためには、幅広い世代の市民のさらなる参画と安定した地域づくりの基盤が必要です。

そのために、若者男女多くの住民が地域づくりに参加できるよう意識の醸成を図るとともに、地域づくりの中心となるコミュニティ会議の基盤強化に向けて支援を行います。

現計画の市民や企業に期待される役割（基本政策4-1「地域主体のまちづくり」）

◇市民に期待される役割（地域、市民団体等を含む）

- ・住んでいる地域への誇りと愛着の醸成
- ・身近な地域活動やコミュニティ会の活動への理解と積極的な参画
- ・地域活動の情報発信と、多くの住民や地元の企業が参画できる開かれたコミュニティ会議の運営
- ・地域の課題解決に向けた主体的・積極的な取組
- ・地域のリーダーや人材の育成
- ・住民相互の親睦や世代間交流の機会の提供
- ・近隣地域との連携

◇企業の役割（事業所、個人生産者等を含む）

- ・地域活動やコミュニティ会議の活動への参画、支援
- ・従業員が住む地域へ積極的に関わることができる環境整備

現計画の政策の方針（基本政策4-2「参画・協働のまちづくり」）

市民参画と協働のまちづくりを進めるためには、お互いを尊重し、持っている特性と能力を活かし合うための環境づくりが必要です。

そのために、市民が積極的に市政に関わることができるよう市政への参画・協働機会を拡充するとともに、市民が行う公益的活動を支援します。また、男女が社会の対等なパートナーとしてまちづくり等に参画できるよう男女共同参画の浸透を図ります。

現計画の市民や企業に期待される役割（基本政策4-2「参画・協働のまちづくり」）

◇市民に期待される役割（地域、市民団体等を含む）

- ・市政へ関心を持ち、積極的に参画する
- ・市政懇談会等、市との対話機会への参加
- ・得意なことを生かし、ボランティア活動やNPO活動へ参画する
- ・花巻について考え、発信する
- ・公共サービスへ市民の力が発揮できる仕組みや市との連携事業の提案
- ・NPO間の連携
- ・男女共同参画社会についての理解と推進

◇企業の役割（事業所、個人生産者等を含む）

- ・企業ボランティアなどの積極的な社会貢献
- ・市との協働事業の実施
- ・男女共同参画社会を推進する環境づくり
- ・大学の保有知識をまちづくりに還元する

各グループの検討内容（意見交換シート）と発表内容

【1班】 ※地域づくり分野の目指す姿及び基本施策4－2「参画・協働のまちづくり」を検討

検討内容

まちづくり分野における「目指す姿」について
・「共に歩む」を入れる
目指す姿を実現するために期待される役割について
【市の役割】 ・市の役割、事業に異議ありません。 ・移住者の増で人口増を図る
【市民に期待される役割】 ・世代を越えた連携を図る ・コミュニティ間の連携 ・これからの時代を築くのは若者だ。若者の意見を！ ・「リーダー」を取る、恐れ多くて参加しなくなる
【企業の役割】 ・保、幼、小、中、高との連携

発表内容

- 今のビジョンの内容はそのとおりである。足りないものは何かを考えた。
- これまで各コミュニティで活動してきたが、人口減少、少子高齢化が進むと活動が厳しくなってくるので、他のコミュニティと一緒にやっていくことも考えなければならない。
- 「共に歩む」という言葉を入れるとよい。
- コミュニティの仕事はボランティアで、報酬をもらえていない人もいる。様々なまちづくりの活動に役員を出せないと、頼れる後継者は育たない。
- 手当が出ないと役員の後継者が育たない。現行計画の目指す姿の中に「コミュニティ会議の基盤強化」とある。お金ではなくて、活動したら、ボランティアに参加した人がいくらかでも報われるようになるようにお願いしたい。

【2班】 ※地域づくり分野の目指す姿及び基本施策4－1「地域主体のまちづくり」を検討

検討内容

まちづくり分野における「目指す姿」について	
・ 文言は理想、無理に変える必要はない ・ 目指す姿はそのとおりだけどみんないっぱい ・ 活動の検証、経費、担い手不足、仕組みの見直し	・ 現状の検証 ・ 文言を変えても現状は変わらない
目指す姿を実現するために期待される役割について	
【市の役割】 ・ コミュニティ助成をハードよりソフトに ・ 組織改革 ・ 担い手の確保 ・ 見直しは必要といいながら組織は減らない ・ 組織の集約 ・ コミュニティと自治公民館（行政区）役割分担と集約 【市民に期待される役割】 ・ 子供を巻き込むためにまず親を ・ 生涯学習（公民館でやってたもの）がなくなっている ・ 組織のスリム化 ・ 合併以降コミュニティのあり方が変わっていない ・ コミュニティは良い組織！ただあり方の見直しが必要 ・ 他の団体の活動をコミュニティに集約することが必要では？ ・ 組織も色々ある、担い手いない、存続の危機 ・ コミュニティ会議の検証が必要 交付金も見直してみては？ ・ 花巻・石鳥谷は公民館単位で動いていた。大迫も。東和は町内会単位だった ・ アリバイづくりの意見交換は必要ないと感じる ・ 地域づくり、今のコミュニティ会議のままで良いか？振り返りが必要 【企業の役割】 ※なし	

発表内容

- 既に考えて作成された文章であり、理想的な文章なので、基本的には変更する必要はないと思う。
- 一方で、合併以降、コミュニティ等によるまちづくりを推進するために、コミュニティ会議や市役所の組織体制が更新されていない。計画を推進するためにこれでいいのかというのを検証してもらいたい。

【3班】 ※地域づくり分野の目指す姿及び基本施策4－2「参画・協働のまちづくり」を検討

検討内容

まちづくり分野における「目指す姿」について	
・少子化対策 ・老人介護 ・町内会役員不足 ・事業の継続をする事 ・若い人が増えて子どもも増える ・若者の参画 ・若い人の確保 ・若者寄りの交流の場 ・男女共同参画、特に若者を！	・子供の教育、親の意識の向上 ・防災意識低下 ・年間を通しての事業 ・地域内の交流 ・若者への支援 ・家庭をもつ（結婚率アップ）⇒出生率 ・若い女子の参画事業の活性化 ・若者の参画について
目指す姿を実現するために期待される役割について	
【市の役割】 ・結婚のすすめ（相談窓口） ・農業の企業化⇒個人企業の支援 ・公的施設の利用を増やす（コロナ規制の緩和を！） 【市民に期待される役割】 ・活動への声かけ、よびかけ ・若者の意見を取り入れる 【企業の役割】 ・企業の進出	
・企業誘致の団地造成（同地域内に） ・子育て支援の拡充 ・役員の若返り ・地域内の交流（飲み会）（情報交換）	

発表内容

- 若い人の人口を増やさなければ、これからの地域はやっていけない。市には人口を増やすような取り組みをしてほしい。それが家庭を持つ、結婚などにつながる。
- 世代間交流の場を設けてほしい。
- 市には人口を増やす施策をやっていただきたい。市民は話し合いで活動を進めていき、企業は企業誘致で人を増やすことをしてほしい。

【4班】 ※地域づくり分野の目指す姿及び基本施策4－2「参画・協働のまちづくり」を検討

検討内容

まちづくり分野における「目指す姿」について
・市民主体のまちづくりを進めても⇒個性あふれる自立したまちにならない ・目指す姿と文章が合わない？
目指す姿を実現するために期待される役割について
【市の役割】 ・市政懇談会（役所の目線と市民の目線は違う⇒もっと市民目線に立った意見の集め方、周知の方法） ・「法人・企業」だと対象が限られる⇒やわらかな表現に ・「言っても変わらない」と思っ言わない人もいる ・市政懇談会だけでは意見する時間・機会が少ない、意見を持っている人はいるので、他の機会も必要 ・どうやって意識をもつか、回覧板は家庭でも見る人が限られる ・NPOだけでなく様々な団体が組織が活動している（NPOだけに限定しなくてもよい） ・ボランティアだけではなく、法人の協力も必要、会社のトップの方の意識改革も必要 ・近年は企業との協定も増えてきている。防災などを中心に協定企業を増やしていくべき！ 【市民に期待される役割】 ・各地区の取り組みや事例がわかるとよい ・地域の取り組み（何が成果で、何が課題かが分からないと次に進むことができない） ・地域コミュニティ会議に対する市民の意見を拾い上げることも必要（住民の評価） ・マンネリ化の解消、新しいことに取り組むにあたって、今がどういった状況かを知りたい 【企業の役割】 ※なし

発表内容

- 現在の「目指す姿」はキャッチフレーズなので、わかりづらく、ピンとこない。全ての市民に分かりやすいフレーズが必要である。「助け合い」「地域や個人の個性」「特性・特技」のような言葉を使っていかなければならない。その際には「個人」だけでなく、「企業」や「地域」が必要になる。
- 地域づくり分野の目指す姿の考え方が、「市民主体のまちづくりを進め、豊かな地域社会を作ります」とあるが、これが本当に「個性あふれる自立したまち」につながるのかという意見があった。今は「地域が自立」という時代ではないので、明記する必要がないのではないかという意見もあった。

【5班】 ※地域づくり分野の目指す姿及び基本施策4-1「地域主体のまちづくり」を検討

検討内容

まちづくり分野における「目指す姿」について
・市民←住民に寄り添った表現 ・個性。地域の持続を生かす。誇れるブランド ・手と心をつなぐ、手をつなぐ＝心がつながっている⇒思いやり、やさしさ
目指す姿を実現するために期待される役割について
【市の役割】 ・市の取組は（政策の方針）は継続 【市民に期待される役割】 ・市との連携事業の提案、草刈り等環境整備とそれに対する支援 ・発信・・・誰に？何を？具体的に ・皆が参加して楽しかったと思える行事の組み立て、発信⇒人とのつながり、外向きにも内向きにも ・議会の信頼－市政の関心 ・理解を促すこと 【企業の役割】 ※なし

発表内容

- 現計画の「目指す姿」について、キーワードを考えた。「市民」という言葉があまりピンとこない。「市民」は「花巻市全体（の一員）」を指し、「地域」は、「地域で暮らす人・住民」を指す。もっと狭いエリアのコミュニティなどのことを考えるなら、「市民」よりも「住民」など分かりやすい方がいいのではないかな。
- 「すべての市民が手と心をつなぐ」がどう「個性あふれる自立したまち」につながるかがわからない。「個性」ではなく、地域の「特徴」「特色」といった言葉の方がいいのではないかな。
- 「手と心をつなぐ」とあり、「手をつなぐ」はイメージしやすいが、「心をつなぐ」のはとても難しいことである。手をつなげば、自然と心はつながるので、表現が少しくどいのではないかなという話があった。
- 「手と心をつなぐ」では重苦しく感じるかもしれないので、「思いやり」や「優しさ」などもう少し優しく感じる言葉ではいかかがかという意見があった。

4 一般社団法人花巻観光協会

令和4年12月13日（火）午後2時00分～ | 花巻市交流会館 第2研修室

まちづくり分野の目指す姿について

現計画の目指す姿（しごと分野）

仕事いっぱい、雇用がいっぱい、活力に満ちたまち

本市は、高速交通網が整備され、恵まれた拠点性を有するとともに、温泉など恵まれた観光資源があります。これらを生かし、産業の活性化を図るとともに、雇用を創出し、まちの活力を高めます。

●政策の目指す姿

- 農林業者が安定した所得を確保しています
- 企業が強い競争力を持ち、生産活動を活発に行っています
- 商業機能を充実し、人とモノの流れを活発にしています
- 国内外から多くの観光客を誘引し、賑わいを創出しています
- 多様な産業が連携し、高付加価値を創出しています
- 希望する仕事に就き、安心して働いています

現計画の政策の方針（基本政策 1- 4 「観光の振興」）

人口減少の中で、まちの賑わいを創出するためには、国内外からより多くの観光客を誘引する必要があります。

そのために、豊富な観光資源を活用し観光地としての魅力を向上させるとともに、国内外に効果的な情報発信を行います。また、観光客が目的地にスムーズに移動できるように環境整備を進めるとともに、まちぐるみで観光客を歓迎できるようにおもてなしの向上を図ります。

現計画の市民や企業に期待される役割（基本政策 1- 4 「観光の振興」）

◇市民に期待される役割（地域、市民団体等を含む）

- ・観光地であるという認識
- ・住んでいる地域の観光資源の理解
- ・市外への観光PR
- ・観光客への声かけ、観光案内
- ・観光地域づくり法人（DMO）が行う観光振興事業への協力

◇企業の役割（事業所、個人生産者等を含む）

- ・イベントの開催
- ・滞在型観光の推進
- ・観光資源の宣伝活動
- ・特産品を活かした観光資源の創出
- ・観光地域づくり法人（DMO）が行う観光振興事業への協力

【現計画の文言について】

- 目指す姿はこの通りかと思う。

【計画の期間・目標の立て方について】

- 8年間の計画であると、かなりラフな見通ししか立てられない。3・4年は見通せても、8年はなかなか見通せない状況がある。
- 1年ごとにやっていくべき事業を明確にして、一つ一つ着実にやっていくべきである。1年1年の区切りで具体的に何をやるか、「これだけは絶対やるんだ」といことを決めていかないと、変わらないのではないかと。何を残すかを明確にしていけないといけない。
- （R3実績の評価の）達成度が「D」ということで、コロナが大きく影響していると思う。コロナ収束後は仕切り直して、達成できていなかったものを変えていく方向性になると思う。花巻市は観光資源に恵まれているので、もっと力を入れていかなければならない。

【花巻の観光資源の魅力向上について】

- 花巻市は観光の文化があり、それを生かしていくべきである。
- 花巻市は県内でもうらやましがられるほどの観光資源がある。全国トップレベルの温泉地があるのでもっと力を入れていてもらいたい。
- 観光施設が老朽化している場所がある一方で、観光資源もかなりリニューアルされてきているように感じる。
- 古民家を改修して少人数で宿泊できるような施設をつくる動きもある。
- 温泉という大きな資源があって、それを軸に観光客を呼んで市内に回すというのは、考え方としてはよいと思うが、二次交通の問題の前に、市内の観光資源、観光施設そのものの魅力向上がまずは大事である。
- 観光施設については、宮沢賢治記念館に付随して、プラスアルファで訪れられる場所があるとよい。マルカン食堂も、そこだけでなく、そこから街中を歩けるようになるとうい。
- 花巻駅周辺についても時間をつぶすことができる場所を作っていくべきである。なはんプラザなどに花巻の代表的なものだけを集約したようなコーナーがあるとよい。
- 体育館などは市民が多く利用しており、観光客も含めて自然と人が集まる場所があるとよい。町の人も散策できたり、地元のことを知る機会にもなる。人が集まる施設をつくってしまうのも一つである。

【「花のまちづくり」について】

- 花巻観光ビジョンの中に「花と地域資源活用プロジェクト」があり、花が季節ごとに楽しめる場所や、花巻の良さを感じられるスポット整備・周知とあるが、これを進めることでよいと思う。例えば、年中花を見られるようにする努力を、市民みんなが、少なくとも今年はこれ1つやろうよということで、目標を持って具体的に動かすことも必要である。市民も何をやっていいのかわからない状況だと思う。
- 地域の人が花を植えたりするなど、花のまちづくりを進めているが、今の花巻に「花のまち」というインパクトはない。圧倒的な花のインパクトがあると花巻らしさにつながる。民家に花壇がある、庭が綺麗といった形でどこに行っても花があるようなイメージ作りもよいと思う。
- 極論であるが、広い敷地に花があるような場所であれば、花巻に行ってみようとなると思う。花を目的にした今までとは違う層が花巻に来てくれるかもしれない。

【人材の確保・育成について】

- 旅館は日本全国で人手不足である。目標で見据える宿泊客数と現実が合っていない。マンパワーが足りていない状況である。特に都内だとハウスキーピング、清掃スタッフすら確保できない施設もある。
- 人口減少を考えると、限界集落にならないようイベントなどに取り組んでいきたい。子どもがおらず、面倒みる人がいない地域もある。

【特産品の開発について】

- ホテル・旅館で、お客様から名物を問い合わせられたときに答えられない現状がある。
- 市内の飲食店や空港、駅など、どこでも食べられるものを作っていけるとよいが、なかなか進まない。専門家と一緒にやっていないといけない。市民にも認知されるようなものでないといけない。
- 花巻産のものを使ったコラボで、新たな商品を作ると PR していきやすい。花巻でコラボしていただくコーディネーターに入ってもらって、地元のものを使ったコラボだと成功しやすい。

【海外からの誘客について】

- 国内の需要が減っていく中で、海外の需要を広げていくことも重要である。仙台空港の台湾便も復航したため、見据えていくべきである。
- 「国内外から多くの観光客を誘引し、賑わいを創出しています」とあるが、今は「国内外」のうち国外は呼び込めていない状況である。

【その他観光振興全般について】

- 「まちぐるみ」といっても、一般市民一人ひとりが「まちぐるみ」にならないといけない。
- バス利用者は駅と温泉以外の場所に行かない人が多い。町の中を回遊することがあまりない。市役所の近くに花巻観光の情報を発信できる施設などがあるとよい。

5 花巻市森林組合

令和4年12月21日（水）午前10時00分～ | 花巻市交流会館 第4会議室

まちづくり分野の目指す姿について

現計画の目指す姿（しごと分野）

仕事いっぱい、雇用がいっぱい、活力に満ちたまち

本市は、高速交通網が整備され、恵まれた拠点性を有するとともに、温泉など恵まれた観光資源があります。これらを生かし、産業の活性化を図るとともに、雇用を創出し、まちの活力を高めます。

●政策の目指す姿

- 農林業者が安定した所得を確保しています
- 企業が強い競争力を持ち、生産活動を活発に行っています
- 商業機能を充実し、人とモノの流れを活発にしています
- 国内外から多くの観光客を誘引し、賑わいを創出しています
- 多様な産業が連携し、高付加価値を創出しています
- 希望する仕事に就き、安心して働いています

【現計画の文言について】

- 「第2次花巻市総合計画に係る市民意識アンケート調査」の結果からみると、産業部門の項目は、重要だが不満があるように感じる。しっかり取り組んでいくというメッセージが必要である。
- 「安定した所得」とあるが、農林業者はすでに所得が安定しているのではないか。農業で言えば、例えば農業は法人化が進んでいるし、していないところは他の仕事をして安定した収入を得ている。
- 第1次産業は安定しているというイメージを打ち出していないと、若者に夢を与えることができないのではないか。「ICTなどの新技術を活用して効率的に活発な生産活動が行われています」といったような前向きな文言の方がいいのではないか。
- 夢を語った方がいいのではないか。目指す姿は前向きな姿を語った方がいい。
- 機械化やIT化、無人化の支援など、「産業そのものの在り方を変えていく」という前向きなことをメッセージとして出した方がいいのではないか。
- 現行の書きぶりでは、「人とモノの流れを活発にしています」「賑わいを創出」「安定した所得」といった記載があるが、これだと、「今まではそうではなかったのか」という印象を与えてしまうのではないか。
- 今やろうとしていることを前向きな形で示した方がよい。
- 「目指す姿」に持っていくために、重点的に取り組む事業を示していくべきである。

政策の方針及び市民に期待される役割・企業の役割について

現計画の政策の方針（基本政策 1-1「農林業の振興」） 就業者の減少やグローバル化による影響が懸念される中、農林業を持続していくためには、農林業に携わる人が安定した所得を確保することが必要です。 そのために、収益性の高い農畜産物などの生産支援を行うとともに、担い手となる後継者の育成、生産基盤や施設の整備による生産性や作業効率の向上に取り組めます。 また、地元産の木材が建築材等として利用されるための供給体制の構築、森林の健全な育成に取り組めます。	
現計画の市民に期待される役割（基本政策 1-1「農林業の振興」）	
◇市民に期待される役割（地域、市民団体等を含む）	
・地産地消の心がけ ・地元産木材の有効活用・適切な森林管理	・地域農畜産物の贈答品への活用 ・植樹育樹活動や里山整備への参加
◇企業の役割（事業所、個人生産者等を含む）	
・生産者自らが販売できる環境づくりと販売促進 ・適地適作による地域の特産物の生産と出荷量の安定確保 ・農業の魅力の発信と人材育成 ・健全な森林育成のための下刈や間伐などの実施	・ICT技術等の導入による品質の向上と低コスト化 ・耕作放棄地の解消と発生させない努力 ・良質な木材の提供 ・意欲と能力のある林業経営者の育成

【人材の確保・育成について】

- 2年前は 2,000 人ほどいた県内の林業従事者が 1,700 人ほどまで減少している。
- 若い人は入ってきているが、リタイア等で辞める人の方が多い。
- ドローンを駆使した調査などを見学させる機会を設けている。若い人達に林業が変わってきている実情を見せてあげる必要がある。
- 新しい技術の導入と若い人を取り込んでいくことが重点施策となるではないか。
- 機械の導入などをモデルとして取り組んでいるケースがあり、その花巻版をやってみるなど、モデルとして新しい未来を見せるような取り組みも必要である。
- 若者たちに「林業の未来はこう！」というものを見せるようにする。昔の「与作」のようなイメージを変えていかないといけない。
- 今の子どもは山に行く機会がない。昔は子どもたちに林業を見せる場、学びの場があったが、現在は無い。
- 高校・大学の林学科もなくなってしまっている。林業や森林を学ぶ機会があるとよい。山の中で作業しているので、農業に比べてふだん目にする機会がない。
- 森林を保全するため木を伐採しているが、それが分らないと、「森林伐採＝環境破壊」と一方的な視点で見てしまっている懸念がある。「花巻市の子どもたちは山のことをちゃんとわかっています」というような形になるとよい。
- 一般市民に林業の話ができるような機会があるとよい。
- 難しいかもしれないが、「市民の森」のような場所ができるとよい。平塚の森（キャンプ場）などを活用できないか。管理の在り方や認知度を上げていくことなどを考えていく必要がある。
- 市民や他の市町村などと交流を広げていく形がよい。

【林業全般について】

- 農業も林業も新しい取り組みや技術など、未来を見せる場があるとよい。
- 森林環境譲与税を活用して人材育成など様々な事業に取り組むことができる。知恵を働かせて取り組んでいくべきである。
- 花巻市のホームページなどを活用して積極的に発信していくべきである。
- 観光は力を入れているように感じる。ウィズコロナを見据えて産業全体としてどうしていくべきかを考えないといけない。

6 社会福祉法人 花巻市社会福祉協議会

令和4年12月21日（水）午後1時30分～ | 花巻市役所本庁舎 302・303 会議室

まちづくり分野の目指す姿について

現計画の目指す姿（暮らし分野）

自然豊かな地域で共に支え、誰もが安心して、いきいきと快適に暮らすまち

本市は、早池峰国定公園をはじめとした豊かな自然を有しています。この自然を大切に、環境の保全を図ります。

また、本市では、地域における「互助」や「結い」による支え合いの体制づくりを進めています。これを活用し、市民が安心して、快適に暮らせる生活環境を整えます。

●政策の目指す姿

- 豊かな自然と生活環境を守り暮らしています
- 生活に必要な基盤が整い、快適に暮らしています
- 災害や様々な危険から守られ、暮らしています
- 安全・安心な日常生活を送っています
- 慣れ親しんだ地域で、共に支え合い、安心していきいきと暮らしています
- 心身ともに健康に暮らしています

現計画の政策の方針（基本政策 2-5「福祉の充実」）

少子高齢化が進行する中、誰もが慣れ親しんだ地域で安心していきいきと生活を送るために、地域の住民が共に助け合う体制を確立するとともに、高齢者の生きがいづくり障がい者の自立への支援を進めます。また、福祉サービスを必要としている人が適切にサービスを受けられるよう相談・支援体制や施設の充実を図ります。

現計画の市民や企業に期待される役割（基本政策 2-5「福祉の充実」）

◇市民に期待される役割（地域、市民団体等を含む）

- ・地域内における課題の発掘や課題解決に向けた取組
- ・地域支え合い体制づくりへの参画
- ・ボランティア活動、地域内グループ活動、研修会等への積極的な参加による生きがいづくり
- ・高齢者や障がい者など誰もが参加しやすい地域行事の企画、開催
- ・障がいに対する理解促進

◇企業の役割（事業所、個人生産者等を含む）

- ・地域内における課題解決に向けての助言と援助
- ・地域支え合い体制づくりへの参画
- ・ユニバーサルデザインの推進
- ・高齢者、障がい者雇用の促進
- ・各種事業や研修会等への積極的な参加
- ・良質な福祉サービスの提供

【現計画の文言について】

- 社会福祉協議会の立場から、「住み慣れた地域で安心していきいきと暮らす」ことがキャッチフレーズとなっている。福祉・防災・安全の要素も入っているので、大きくは変わらないと思う。
- 現行計画では「暮らし」分野の中に福祉を含めた全ての生活の内容及あり、ここに「自然豊かな地域～」とあるが、福祉分野と一緒にの文言とすることに違和感を感じる。
- これから地域の方々が、何らかの形で活動に参加していただくのであれば、「安心して、いきいき～」という部分の中に、「社会参加」に関わる内容が入ってくるべきである。社会参加してはじめて「いきいきした生活」になってくる。
- 市として地域福祉の目指していく方向を示していただけるとよい。
- リーダーシップが見えるような表現や理念を示すことが大事である。
- 「福祉のまちづくり」というイメージづくりがあってもいいかもしれない。

【地域における助け合い・支え合いについて】

- これからは介護が大変になる。施設はあるが、お金がある人しか入れない。花巻市としても何かに取り組んでいかなければならない。介護によって自殺に追い込まれてしまう人もいる。なんとか行政で特徴ある取り組みが出せないか。
- 見守りなどについては、複雑な問題がありすぎて、様々な人が支援していかなければならない。重層的支援といわれる中で、お互いに連携を取り合い、情報を共有し合ってやっていく必要がある。
- 地域福祉、長寿福祉、障がい福祉、それぞれに計画があり、取り組んでいる。一方で、生活課題は多様化しているため、それぞれの垣根を越えた形での計画が非常に大切であり、それが重層的支援体制につながる。担い手不足のなかで、地域の力を借りていかなければならない。「共に支え合う」「市民協働」などがキーワードになるが、人材確保の部分は考えていかなければならない。
- 市民に期待される役割について、地域での活動ができているところとできていないところの差が激しい。できていない地域は顔を合わせる機会が少なくなるという。
- 「地域でこういったことができませんか？」といったアプローチが必要である。
- 助け合い、支え合いの活動は民生委員だけでは難しい。民生委員を地域でバックアップしてもらえそうな地域でないといけない。
- 地域の課題で解決できるものは地域の中で解決していこうというのが、地域に求められる役割である。

【福祉人材の確保・育成について】

- 福祉人材の確保について非常に悩んでいる。奨学金制度などを少し手厚くしていただいて、卒業、資格取得後花巻に定着してもらえるようにしていかないといけない。医療職や看護師も同様になる。
- 紹介を通せば来てくれるが、定着しない問題もある。収入面だけでなく、人間関係に悩んでしまっている現状もある。

【企業の関わりについて】

- 社会福祉協議会の支部単位で地域福祉懇談会が進んでいる。地域の中の課題は何か、課題に対応するためには何ができるのか、自分たちの地域にどういった資源があるのか、などを考える取組が始まっている。「これだったら自分たちでできるのかな」ということを考える。その結果をもとに計画を立てて、地域の中で実施していこうと動いている。
その際に、今度は企業がどう参加してもらうかが重要となる。人的支援や資材の提供支援など方法は様々だが、これらのことを具体的にメニュー化して、いざ企業が「何か協力したい」と言ってくれた時に、「ではこういう形で」と示すことができればより理解しやすいと思う。そういったことをしていかないと、地域で浸透していかないとと思う。

【福祉全般・行政支援について】

- 今地域の中でそれぞれの思いがあって、色々な福祉活動が展開されているが、今後、総合計画の目指す姿に近づくために活動していくという意識を持ってこれからもやっていくのであれば、新たな事業展開も生まれてくる。その時に市の関係部署の中でも同じ考え方で事業に取り組んでいけばいいと思う。例を挙げると、独自で団体が始めた事業の展開について、市は色々な形で相談対応していただけるよう、各課が連携して対応をお願いしたい。
- ひきこもりの対策を進めていかなければならない。社会復帰の訓練となる場を作っていく必要がある。

7 花巻市社会教育委員

令和4年12月22日（木）14:00～ | 花巻市生涯学園都市会館（まなび学園） 第2・第3中ホール

まちづくり分野の目指す姿について

現計画の目指す姿（人づくり分野）

郷土を愛し、丈夫な体と深い知性を持つ心豊かな市民が育つまち

本市は、宮沢賢治をはじめ、多くの先人を輩出するとともに、早池峰神楽など様々な民俗芸能が伝承されるなど、歴史と文化に彩られています。また、充実したスポーツ施設を整備するなどスポーツによるまちづくりを進めています。これらを生かし、次代の花巻を担う人材を育成します。

●政策の目指す姿

- 子育てに喜びを感じ、安心して、健やかな成長を育んでいます
- 夢と希望を持ち、たくましくいきいきと育っています ○生涯を通して学び、広い視野を持ち、活動しています
- 世界に目を向け、様々な地域の文化や風土を受け入れ、交流しています
- いつでも、どこでも、いつまでも気軽にスポーツに親しみ、元気に活動しています
- 地域の歴史や文化、先人に誇りを持ち、芸術文化に親しんでいます

現計画の政策の方針（基本政策 3-3「生涯学習の推進」、3-4「スポーツの振興」、3-5「芸術文化の振興」）

○3-3「生涯学習の推進」

社会経済情勢の変化への対応や地域課題の解決に向け、市民が生涯を通して学び、広い視野を持ち、活動していくためには、学習や活動のための環境づくりが必要です。そのために、市民が自主的に生涯学習活動ができるよう支援を行います。また、地域と連携して青少年の自立に向けた育成を推進するほか、国際都市の実現に向け、市民の国際理解の醸成を図ります。

○3-4「スポーツの振興」

市民が気軽にスポーツに親しむためには、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツできる環境づくりが必要です。そのために、地域における生涯スポーツを推進し、スポーツに親しむ機会を提供するほか、競技スポーツのレベル向上や大規模スポーツ大会の開催によるスポーツ交流の拡充を通じてスポーツへの関心が高まるよう取り組みます。

○3-5「芸術文化の振興」

市内の芸術文化を振興させるためには、市民が地域の歴史や文化、先人の理解を通じ、芸術文化に親しむことができる環境づくりが必要です。そのために、身近な場所で芸術文化に触れることができる機会を拡充するとともに、先人を顕彰し、その功績が理解されるよう取り組みます。また、文化財の適切な保護や活用を図るとともに、地域に伝わる民俗芸能の伝承を支援します。

現計画の市民や企業に期待される役割（基本政策 3-3「生涯学習の推進」、3-4「スポーツの振興」、3-5「芸術文化の振興」）

○3-3「生涯学習の推進」

◇市民に期待される役割（地域、市民団体等を含む）

- ・生涯学習活動への参加 ・地域の生涯学習事業の企画と参加 ・生涯学習施設の積極的な活用
- ・日常的な「学び」の習慣化 ・学習成果の発表 ・青少年の積極的な地域活動への参加
- ・国際交流、国際理解イベントへの参加

◇企業の役割（事業所、個人生産者等を含む）

- ・生涯学習活動に対する理解と支援 ・生涯学習講座への講師の派遣 ・青少年健全育成活動への理解と支援
- ・国際フェア等の国際理解事業への理解と支援 ・多文化共生社会への理解と推進

○3-4「スポーツの振興」

◇市民に期待される役割（地域、市民団体等を含む）

- ・生涯にわたり積極的にスポーツに取り組む ・スポーツの指導や交流による次世代の育成
- ・地域スポーツ行事の主催と参加
- ・スポーツ少年団、総合型地域スポーツクラブ等を含めた地域主体のスポーツ活動への支援と参加
- ・各種大会等で訪れる市外の選手、観客をおもてなしの心で迎える

◇企業の役割（事業所、個人生産者等を含む）

- ・県内プロスポーツへの協賛 ・スポーツイベントの開催や支援 ・企業内スポーツの推進やスポーツ大会の実施
- ・スポーツ大会による地域住民との交流 ・従業員がスポーツ活動へ参加・指導できる環境づくり

○3-5「芸術文化の振興」

◇市民に期待される役割（地域、市民団体等を含む）

- ・地域の歴史、文化、先人に対する理解 ・地域の民俗芸能の伝承と後継者育成
- ・地域文化財の保存、伝承、掘り起こし ・芸術文化活動の実践と発表
- ・市民芸術祭や芸術公演等鑑賞機会の利用 ・地域の芸術文化施設の運営に対する市民の積極的な参画

◇企業の役割（事業所、個人生産者等を含む）

- ・従業員の芸術文化活動・鑑賞に対する理解と支援 ・地域の文化活動に対する理解と支援
- ・文化財の保護伝承活動への理解と支援

【現計画の文言について】

- 生涯学習とスポーツと芸術分野の3つの分野を、「人づくり」という言葉でまとめてしまっている。「つながっていくこと」もとても大事なことである。
- 「人づくり」という言葉について、「行政が人をつくる」という印象もある。「生涯学習」など、別のわかりやすい表現にした方がいいのではないかと。また、生涯学習の中に国際交流が入ることにも違和感がある。入れどころがなくここに入っている印象もある。
- 生涯学習やスポーツ、文化、芸術は自己実現、生きがいづくりにつながるところなので、「人づくり」だと違和感があるのではないかと。
- 生涯学習は自己実現に重きを置かないと、社会教育に戻ってしまう。
- 子育てと生涯学習を含めて「人づくり」と表現したいのだと思う。
- 教育などだと「育む」で、自己実現は「学ぶ」のイメージか。
- 家庭教育の内容が薄いと感じた。教育部門の検討で上がってくるか。生涯学習に関わる家庭教育もある。
- 基本施策 3-3 の市民に期待される役割に「日常的な『学び』の習慣化」とあるが、「日常的」と「習慣化」は同じような表現である。「日常的」より「主体的」といった言葉の方がふさわしい。
- 基本施策 3-4 の市民や企業に期待される役割は、体言止めと動詞が混同しているので統一した方がよい。

【子どもや若年層へのアプローチについて】

- 「第2次花巻市総合計画に係る市民意識アンケート調査」について、18～29歳の回収率が少ない。住みやすさも若者と高齢者の意向は異なる。若者の意見を反映した計画にしていけないといけない。
- 地域の中に子どもたちが少ない。この文章の中には自分から学んでいくような表現が多いが、「地域に育まれて」といような表現があってもいいのではないかと。郷土や文化を学ぶことによって、地域への愛着を持つていくなど。
- 今後、市内のすべての中学校区にコミュニティスクールができ、地域と学校を結びつけるコーディネーターが配置される予定である。これを踏まえ、子どもたちをどう育てたいのかを話し合い、地域でやること、学校にお願いすることを考えている。さらに、学校教育も先生が一方的に教えるものから主体的に自分から課題を見つけて学ぶという形になってきている。それを踏まえ「みんなでやっていく」といような文言を入れていく必要がある。

- 今後、部活動が地域に委ねられるようになるため、それを踏まえた文言も検討すべきである。主体的に市町村も取り組まないといけなくなると思う。

【スポーツ・文化芸術振興について】

- 現状様々な場面で SNS によって情報が発信されており、スポーツやイベントは新聞などであとから知ることが多い。情報発信の仕方を統一するなどした方がよい。子どもたちもイベント等に携わることで成長するので、発信の仕方を検討してほしい。
- スポーツだけでなく芸術関係でも大きな大会をできるように検討いただきたい。

【多文化共生について】

- 多文化共生社会の理解推進について、花巻市でも外国人の方が入っているように感じる。「国際都市の実現に向け、市民の国際理解の醸成を図ります」とあるが、市民に期待される役割としてイベントへの参加などになっている。交流と理解だけでなくもう一歩進んだ内容を検討してもいいのではないか。
- 人づくりの分野に多文化共生がぶら下がっているが、産業や他のことにも関わってくるので、この体系でいいかどうかは検討すべきである。

【生涯学習全般について】

- いつもやっている人はやっているが、そうでない人をどう巻き込んでいくかが大事であり、「第2次花巻市総合計画に係る市民意識アンケート調査」でもそのことが顕著だと思う。学びが楽しいということを多くの人に理解していただくことが重要になる。学びで生活が潤うことを多くの人に理解していただきたい。
- 同アンケート調査の結果によると、生涯学習に関する政策は満足度も重要度も低い項目に入っているが、やらなくていいものではない。緊急度が低いように感じるが、重要度は決して低くないと感じる。
- 生活の衣食住が充実しないと、生涯学習が充実しないと思う。生涯学習を充実させるためには市民の生活を充実させる必要がある。

8 花巻商工会議所

令和 5 年 1 月 11 日（水）午後 1 時 30 分～ | 花巻商工会議所 会議室

まちづくり分野の目指す姿について

現計画の目指す分野（しごと分野）

仕事いっぱい、雇用がいっぱい、活力に満ちたまち

本市は、高速交通網が整備され、恵まれた拠点性を有するとともに、温泉など恵まれた観光資源があります。これらを生かし、産業の活性化を図るとともに、雇用を創出し、まちの活力を高めます。

●政策の目指す姿

- 農林業者が安定した所得を確保しています ○企業が強い競争力を持ち、生産活動を活発に行っています
- 商業機能を充実し、人とモノの流れを活発にしています
- 国内外から多くの観光客を誘引し、賑わいを創出しています
- 多様な産業が連携し、高付加価値を創出しています ○希望する仕事に就き、安心して働いています

現計画の政策の方針（基本政策 1-2「工業の振興」、1-3「商業の振興」、1-5「農工商観連携の推進」、1-6「雇用環境の充実」）

○1-2「工業の振興」

経済のグローバル化により、地方においても国内外からの様々な影響を直接受けることとなり、その中で、地場企業の生産活動が活発に行われていくためには、他の企業に負けない高い競争力が必要です。そのために、企業の生産技術向上や経営課題の解決など総合的な支援を行うとともに、新分野や成長分野への進出を促進します。

○1-3「商業の振興」

人口減少により、市内消費の縮小も懸念される中、商店街など市内の商業を活性化させていくためには、消費者（人）と商品（モノ）の流れが活発になるよう商業機能を充実させる必要があります。

そのために、消費者ニーズに対応した多様な商業形態の形成を図るとともに、既存の商店街が、歴史と景観が調和した魅力ある商店街として再生できるよう支援します。

○1-5「農工商観連携の推進」

市内の産業振興を図るためには、多様な産業が互いに連携し、高付加価値を生み出す必要があります。

そのために、多様な分野において、起業や新たな事業展開への支援、企業誘致を推進するとともに、地場産品を活用した特産品の開発を促進することとし、以下の施策を展開します。

○1-6「雇用環境の充実」

市民が希望する仕事に就き、安心して働くためには、雇用環境の充実を図る必要があります。

そのために、企業が必要とする技術や能力を身につけるための人材育成に取り組むとともに、働きやすい就労環境づくりへの支援を行うなど勤労者福祉の向上を図ります。

【現計画の文言について】

- 「雇用がいっぱい」については、健全な雇用がいっぱいあるかということ、そうでないと思う。どうやって定住させていくかが重要である。「活力に満ちたまち」はそのとおりである。
- 新しいことばで魅力を発見していくべきである。「活力に満ちた」については、すでに満ちているので、新しい言葉を考えていただきたい。
- 「仕事いっぱい、雇用がいっぱい」は古い印象がある。青年部が考えたキャッチコピーとして「若者の夢が広がるイーハトーヴ花巻」がある。夢が持てるようなフレーズになるとよい。
- 夢が実現できるまちであってほしい。
- 10年前の議論の内容なので、全体的に古い。

【企業支援・企業誘致について】

- 「企業」とあるが、「地元企業」と「大手企業」を分けて考えてほしい。競合する会社は大手が多いが、地元企業の方が域内で経済が回る。
- 企業誘致を進めたとして、仮に利益があった場合にその利益が本社に吸い上げられてしまう、または利益配当が海外に出ている可能性もある。
- 誘致企業は、労働力を提供してほしいという程度にしか考えていない場合もある。地元企業を中心に考えてほしい。地元企業の健全経営を支える目線になると思う。
- 地元の企業の価値は、「その地域に本社があり、その地域にどれだけ利益を出して、地域経済に貢献するか」ではないか。
- 雇用環境に関しては、人が欲しくても来てもらえない状況を見据えて動かないといけない。利益をあげないと給料を上げられない。企業の利益を上げることをまずは考えないといけない。
- 新卒入社は3年で3割やめるという。経営者にとってのモチベーションがなかなか上がらない状況にある。倒産によって店を閉めてしまう人もいる。
- 地域域内の取引がほとんどない状況である。投資額と新規雇用で、固定資産税の補助などが受けられるが、やはり域内の経済循環を真剣に考えてもらわないといけない。
- 地元企業との取引についてはインセンティブを設けるなど、できるだけ域内でのサプライチェーンを構築し、地場産業の継続支援の仕組みについて意識をもって、次期計画に落とし込んでいただけるとありがたい。

【人材の確保・育成について】

- 労働力の確保が各所厳しい状況にある。一方で、優秀な人ほど地元を選ぶ地域もある。仙台や東京への流出を逆転させるため、企業側の魅力を引き出す取り組みが必要である。地元の企業の良さを知らせる機会をもっと作ってほしい。
- 地元企業が盛んになって、若い方々も仕事に就くことができ、収入、収益も上がり、その結果、地域の生活が豊かになっていくというサイクルではないかと思っているので、企業側の労働力のニーズと若者の雇用の場のマッチングを考えていただきたい。
- 「仕事いっぱい、雇用がいっぱい」とあるが、今の企業の状況を理解したうえで考えていただきたい。仕事があるが人がいない状況になっている。
- 文章をみると、当事者の想いと中身がずれているように感じる。
- 優秀な人材ほど外に出てしまう傾向がある。優秀な人が地元で発信して、地元を知ることによって、外に出た人が花巻市に戻ってくることができると思う。行政がそういった支援をして呼び寄せるようにしてほしい。
- 良い人材を受け入れられる受け皿を作っていきたい。個々の企業だけで対応できないことも多い。
- 個々の企業が「慢性的な人材不足」として捉えるのではなく、大きな課題として地域で対応していかなければならない。
- 外国人技能実習生の受け入れについて、受入の地域の雇用をある程度維持していくために、製造業だけでなく飲食などについても対策・対応を考えていかないといけない。
- ジェンダーの問題についても考えないといけない。どちらかというと若い世代への発信ととらえていたが、50歳代前後の人へのアプローチも必要である。

- 小学生やその保護者など、若年層に訴えかける地元企業の PR。このような行政でないやりにくい部分について、一緒に知恵を出してほしい。
- 人手が足りなければ、賃金上がるのが通常であるのに、花巻では管理している人の給与が高く、ものを作っている人は給与が安いという固定観念がぬぐえていない。
- 域内の企業に就職する高校生の割合や実数などを数値目標としてほしい。
- 人を引っ張ってくるためには給料についても考えないといけない。

【商業について】

- 近隣の学校などに就職に関する意向を聞くことが重要である。市内だけでなく、市外に向けた発信をしていく必要がある。市外に出た人にアンケートをとって、どうやったら花巻に戻ってきてもらえるかも考える必要がある。
- 日常の買い物について、果たして地元の商店から買っているのかどうか。
- 例えば北上に工場が集まっているので、そこに勤めている方を呼びこめるような商業施設などの誘致も検討してほしい。商店街だけに求めるのは難しい時代なので、唯一無二の呼び込める施設等を検討してほしい。地元主導の取り組みが必要である。
- 食品関係については、各メーカーが商品開発に注力できていない現状がある。今、農家が頑張っているもの、使える素材をメーカーの方に紹介していただくような提案を、市の方で一緒にやっていただきたい。

【工業について】

- 花巻市の工業は外的要因に弱い傾向がある。それに対しての支援があるとよいと思う。
- まちづくりが重要である。定住・交流人口を増やしていくことが重要である。
- 観光については、花巻はリピート率が高い。1 回目に来てもらえるように情報発信に力を入れていくべきである。
- 現在は通販で買えるものも多い。大企業の力が大きくなっている。給与の格差も大きくなっている。アンケートも恥ずかしくて書けないという人もいる。他の調査結果はもっと厳しいと思う。少子高齢化が進んでいるので対応しないといけない。
- 長期計画をつくっても、状況がどんどん変わってきている。変化が激しすぎる。状況の変化に対応できないので、都度修正していかないといけない。
- 花巻には多くの歴史的遺産があるものの、それが継承されていない傾向がある。先人たちの思いを汲みながら花巻の歴史的遺産を活用していただきたい。

9 花巻市地域公共交通会議委員

令和 5 年 1 月 17 日（火）午後 3 時 30 分～ | なはんプラザ COMZ ホール

まちづくり分野の目指す姿について

現計画の目指す姿（暮らし分野）

自然豊かな地域で共に支え、誰もが安心して、いきいきと快適に暮らすまち

本市は、早池峰国定公園をはじめとした豊かな自然を有しています。この自然を大切にし、環境の保全を図ります。

また、本市では、地域における「互助」や「結い」による支え合いの体制づくりを進めています。これを活用し、市民が安心して、快適に暮らせる生活環境を整えます。

●政策の目指す姿

- 豊かな自然と生活環境を守り暮らしています
- 生活に必要な基盤が整い、快適に暮らしています
- 災害や様々な危険から守られ、暮らしています
- 安全・安心な日常生活を送っています
- 慣れ親しんだ地域で、共に支え合い、安心していきいきと暮らしています
- 心身ともに健康に暮らしています

現計画の政策の方針（基本政策 2-2「生活基盤の充実」）

市民が快適な生活を送るためには、道路や住宅、水道など生活に必要な基盤が整備されていることが必要です。

そのために、安全で利便性の高い道路の整備をはじめ、利用しやすい公共交通の確保、安心して生活できる住宅の確保、地域の特色を活かした景観の形成、安全でおいしい水の安定的な供給、汚水の適切な処理、さらには、快適な情報通信環境の整備促進に取り組みます。

現計画の市民や企業に期待される役割（基本政策 2-2「生活基盤の充実」）

◇市民に期待される役割（地域、市民団体等を含む）

- ・除雪や草刈りなどの道路環境維持への協力
- ・公共交通の積極的な利用
- ・住宅の耐震化
- ・地域で取り組む景観の形成・維持
- ・宅地内の水道給水装置の適切な管理
- ・污水处理施設への接続
- ・情報通信サービスの積極的な利用

◇企業の役割（事業所、個人生産者等を含む）

- ・除雪や草刈りなどの道路環境維持への協力
- ・公共交通の利便性の向上
- ・快適な集合住宅の提供
- ・地域の景観にあった建物・看板の設置
- ・敷地内の水道給水装置の適切な管理
- ・污水处理施設への接続
- ・情報通信サービスの利便性の向上

【現在の公共交通の状況について】

- タクシーの重要度が増している、7 割以上の方が使いたいという意向があった。喜ばしい形かと思う。予約乗合バスが週 3 日運行しているので、これを充実させていく必要がある。大迫から花巻に行くバスが充実していないという意見がある。
- 八重畑地区は起伏がある場所である。コミュニティとしては意見を取り上げにくい。10 年後に 75 歳以上の方が 60% 占める結果をみても、除雪や草刈の対応ができない。病院に予約乗合バスで行っても、自分がまだ呼ばれていないために、新たにタクシーを頼んでいる現状もある。「暮らしを良くする」ということは、これから高齢者になる人や既に高齢者の人など様々な人がいる中で、どんな形にしたら全ての人にとって住みやすくなるのかということを考えていけないといけな。便利なところではどうかなるが、家族の足を頼りに生きていけないといけな。
- 市街地循環バスの運賃は 100 円であることを知らない人がいる。知らないことをなんとかしていかなければならない。
- 小中学校が統合になっているので、スクールバスを市に出してもらっているが、課題もある。地域によっては、高校生の交通手段として、バスも何もない状況にある。バスがあればいいが

高齢者が送迎しているところもある。

- 地域の状況からいうと、宮野目地区は街中に近い場所であるが、公共交通を比較的に利用しない地区である。宮野目学区の児童・生徒数はほぼ横ばいで推移するという予測が出ている。働く世代もまだ多く、公共交通を使うよりも自家用車などを使う人が多い。
- ビジョン作成にあたっては、「あるべき姿を掲げて頑張っていく」というものだと思うが、地域によって実情が異なるので、地域に合わせたビジョンを作っていないといけない。
- 免許返納すると通院に日4,000円かかる。通勤通学に注視しすぎて日中の通院に不向きな地域がある。

【公共交通事業者の運営状況について】

- 交通事業者としては人流をつくるのが仕事であるが、コロナの影響で利用者が減っている。また、慢性的な運転士不足が続いている状況である。
- 運転士不足は歯止めがきかない状況が続く。退職者から聞くと、賃金、労働時間の問題もある一方、サービスや運転マナーの向上を目指す会社の指導について、一種の辛さを感じるなどの意見もあった。
- 貸切バス運行、星めぐり号の運行を行っている。スクールバスの運行も運転士不足が喫緊の課題になっている。休みが取りづらいなどの意見がある。星めぐり号は1日1路線に2人人員がとられると、経営的にも厳しい状況にある。運転手は65歳を定年としているが、65歳以上が20人中8人いるような状況である。
- タクシーも60代後半から70代のドライバーが多く、20歳代のドライバーは岩手県内で6人しかいない。少子高齢化が原因である。当社は車両が47台あるが、昼間は20台、夜は10台前後の稼働になる。人手不足が顕著なのが花巻・北上地区である。若い人は賃金が高い仕事に就く傾向がある。地域の雇用が減っている。乗務員を募集しても応募が来ない。補助金なしでやっていたらとうに会社が潰れている状況である。バスとタクシーは非常にバランスが難しい状況である。石鳥谷では予約乗合バスを早くからやっていたが、利用者が少ないときはコロナ前の40%であった。いまは一般のタクシーの売上も下がってきている。効率のよい回し方を考えていけないといけない。また、予約乗合バスは各地域の皆さんがそれぞれで伸ばしていかないといけないことである。

花巻市まちづくり総合計画及び花巻市地域公共交通計画における「目指す姿」、「めざすべき将来像」とそれを実現するための期待される役割について

- コンパクトシティの考え方について、年齢を考えた場合、中心部の利便性が良い方がよい。
- ILCの関係などもあって、海外からの方が今後花巻にも増えることが見込まれる。花巻の特色ある景観や歴史文化をいま一度見直し、地域に即した建物のデザインなど、国際的に通用するような都市デザインを進めていく必要がある。
- 精神障がい者向けのグループホームがあるが、この人たちの一部は中心部で生活しており、安全に移動ができる状況にある。
- イギリス海岸はバスが停まらない。世界に開かれたまちづくり、宮沢賢治を生かしたまちづくりを進めていくことが重要である。
- 「第2次花巻市総合計画に係る市民意識アンケート調査」の「生活基盤の充実」の中に満足度を見ても、どういう不満があるのかを踏まえたうえで、対応していく必要がある。
- 公共交通ということで、市民生活の足の課題として人口減少があり、交流人口による経済活性

化が重要である。花巻市の観光施設は点在している。「市街地循環バス」や「どんぐりと山猫号」など、市民生活と観光を双方から考えることができないかと思う。

- 観光はいろんなものをつなぎ合わせていく必要がある。観光の足が大事である。二次交通は足を求める前に観光施設を充実させる方が大事である。行きたいところ、見たいものを充実させなければ足を用意しても意味がない。観光資源の魅力づくり、観光情報の発信、その次に二次交通の確保である。
- 公共交通は多くの人が支えていかなければならないはずである。「地域の人が公共交通を支える」という意味合いが入るとよい。
- 積極的な利用については、市として「公共交通を利用する日」などを設けてみてはどうか。企業の役割としてマイカーの利用を控えるなどが考えられる。
- 利便性の向上について、高齢化して移動のニーズは増えるが、ニーズに対応する労働力がない状況である。具体的なアクションとして難しい。リタイアした人がドライバーになると、市から奨励金を出すなど、ニーズに対応する労働力を確保するという手立ても大事だと感じた。
- 今の公共交通の考え方だと、利用者は増えない。バス停まで 20 分・30 分かかる人もいる。今のやり方を継続するのであれば意味がないように感じる。地域を均等に回れるようにすると利用者が増えると思う。家族がいないと家から出られない。発想の転換をしていかないといけない。
- 目指すべき姿は難しいが利用者側からすれば要望がたくさんある。「総動員」という考え方もあっていい。社会福祉協議会でご近所サポーター事業の制度があるが、そのなかに移動支援もあったと思う。「福祉」の枠だけでなく、行政支援として取り組めればよい。
- 昨年だけで管内で 300 人の方が免許返納しているが、ほとんどは同居家族がいる人である。交通死亡事故については 3 人に 2 人が高齢者となっている。事故を減らすためにも公共交通や総合計画のなかで検討いただきたい。

10 公益社団法人 花巻青年会議所

令和5年1月23日（月）午後1時30分～ | 花巻市役所本庁舎 委員会室

※公益社団法人花巻青年会議所においては、花巻市における SDGs(持続可能な開発目標)の推進に向け、総合計画と SDGs の関連付けや、具体的な周知の手法などについて意見交換を行いました。

【総合計画とSDGsとの関連付けについて】

- 花巻市の中で SDGs を推進していくということと、総合計画に関連付けるところを考えて行くのであれば、17 のゴールだけでなく、169 のターゲットやそのあとの指標まで関連付けていくのが本来なら望ましいのだろうと思うが、現状のタイミングではそうもいかないことも理解できる。
- それぞれの政策施策にナンバリングしていくのではないと思うが、世界的な指標なので花巻に合っているものと合っていないものがある。日本や岩手に置き換えたものもすでにあるので、花巻版に変換するという作業を通して市民や企業の目にアピールする、というのも一つの手段かと思う。
- 青年会議所としても、SDGs について周知を図ってきたところではあるが、やはり浸透させるというところに難しさを感じている。政策や施策の中で、事業者や市民が意識しやすいもの、親しみやすいもの、触れやすいものにナンバリング（関連づけ）していくのがいいのではないかと感じた。
- 長期ビジョンには政策や施策の方向性の掲載までで、具体的な事務事業は掲載されない。一つひとつの政策や施策に 17 のゴールを紐づけるとなると、複数のゴールが同時に紐づけられることになり、具体的に何をすることがわからなくなってしまう可能性がある。そうであるならば、SDGs の位置付けはアクションプランに掲載するのが望ましいのではないかと思料される。
- 事業ごとに SDGs のゴールとターゲットを紐づけていくやり方もあるが、既にやっていることに当てはめると後付けになってしまうのは悩ましいところ。

【総合計画におけるSDGsの周知・啓発について】

- 総合計画が市民の目に触れる機会が少ないことが課題と感じている。「第2次花巻まちづくり総合計画に係る市民意識アンケート調査」にもあるとおり、計画があることは知っているが内容を見たことがない人が多い。せっかく SDGs を入れても目にする機会がないと意味がないので、デザインも含めて見やすいものにして、そこに SDGs を絡めていくべきだと思う。
- 市公認の地域キャラクターである「フラワーロールちゃん」が SDGs のロゴを掲げている、という形はどうか。キャラクターが説明するような形も親しみやすさという点で効果的なのではないか。
- 既に SDGs の達成に向けて取り組んでいる企業などの事例なども含め、周知していくのも効果的なのではないか。
- 市民の行動に結びつけていきたいのであれば、計画の概要版の方に乗せるのも一つの手段と感じた。SDGs を関連付けてどうしたいのかを明確にするべきである。
- 岩手町総合計画が見やすかった。岩手町は SDGs 未来都市に選定されている。参考にされたい。

- 今の子どもたちは学校などで SDGs を学ぶ機会があるが、そういった機会がない世代や無関心層にどうアプローチしていくべきかを考えていかなければいけない。
- SDGs について誰に聞いていいかわからない状況がある。浸透させるのであれば企業へのアプローチが一番よい。補助金の申請の際に SDGs についての研修を受講することを条件にする、広報に継続的に SDGs に関する記事を掲載し、目にする機会を作るなどの手段が考えられるのではないかな。
- （2030 年までの達成目標のため）8 年後の 2031 年には SDGs の状況も変わっている可能性がある。そのときには（現在の SDGs に）替わるものが存在するかもしれないが、いずれそれぞれの生活に刷り込ませていくために、身近な媒体や機会（わんこそばなど）の活用を検討していく必要がある。
- 今期の青年会議所は主体性をもつことを所信表明にしている。SDGs の認知度が低い、関心度が低いのは主体性（自分事という意識）が低いからではないかな。
- 2030 年までにゴールを達成するのであれば市としても数値目標を決めなければならないと思うが、それとは別に「見せ方」としてはごくライトでよいと考える。総合計画としてはアイコンを付けるだけでもいいかもしれないし、様々な事業やイベントごとに（ポスターにアイコンを表示するなど）見せ方を考えて行くのがよいのではないかな。
- SDGs の良いところはビジュアル化されていること。「私たちはこういうことに取り組んで行く」というメッセージ性を示しやすい。それはどんどん示していくべき。

【青年会議所の取り組みと行政との連携について】

- 総合計画が示すビジョンと、青年会議所のような個別の組織が掲げるビジョンがそれぞれ存在しているところが、わかりにくくなっているのでは。
- 青年会議所で掲げる「まちのビジョン」の策定作業のため、現在まちづくりのステークホルダーの洗い出しを行っている。課題整理やキーワード出しを行っていく予定なので、総合計画との役割の違いを明確にするためにも、継続した情報交換を行っていきたい。